

平成 26 年度学校関係者評価報告書

学校法人静岡県美容学園
静岡県美容専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人静岡県美容学園静岡県美容専門学校学校関係者評価委員会は、平成 26 年度自己評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施しましたので、以下のとおり報告します。

1 実施日

平成 27 年 2 月 10 日 (火)

2 場所

静岡県美容専門学校会議室

3 実施内容

授業参観及び学校報告会
学校関係者評価委員会

4 評価委員

赤上喜久子氏 (日本美容技術振興センター理事)
岡田 浩明氏 (静岡県立静岡農業高等学校進路指導主事)
杉山 聡氏 (静岡県立静岡商業高等学校商業科教諭)
山田 浩氏 (美容室ジャストフィットヘアファンタジー代表)
杉本 静香氏 (昼間課程 1 年保護者)

5 報告者

校長	杉本 淳光
教務主任	蒔田 英司
副教務主任	望月ひとみ
国家試験担当	長尾 紀子
総務担当	園田 環
事務局長	提坂 直

6 参列者

理事長	中島 將博
副理事長	坂本 正

はじめに

本校は、平成 23 年度から学校の質保証と向上を目指して「学校自己評価」を行っている。具体的には、校内評価委員会による自己評価と、学生による授業評価・学校生活満足度アンケートなどを行い、学校が抱える課題の明確化と改善を図ってきた。

平成 25 年度からは、「専修学校における学校評価ガイドライン」(平成 25 年 3 月文部科学省)に基づき、組織的で継続的な教育活動の改善とキャリア教育の充実をさらに図るため、外部の有識者による「学校関係者評価会議」を開催して、指導・助言や提言をいただくことにした。

当日は初めに授業参観で学生の取組状況を見ていただいたのち、学校からの報告、評価会議の順に進めた。会議では、校内評価委員会でこれまでの取組状況を検証して、「やや不十分な点がある」と評定して自己評価の欄に C と記した項目を中心に、意見、改善すべき点、提言等を伺った。

1 教育理念・教育目標

(現状の問題点)

- ・教育方針等は、始業式、終業式などで意識を持たせているが、全生徒に十分理解されているとはいえない。
- ・教育方針の文言が説明しにくい表現となっている。

(改善のための方策)

- ・教育方針、目標等は、平易なことばで分かりやすく示す。
- ・入学式、始業式、終業式等に、保護者や生徒に理由等の説明を加えながらさらに徹底する。
- ・日々の授業やホームルームなど全教育活動を通して美容師としての在り方を指導する。

(結果検証)

- ・27 年度に向け、4 つの教育方針、求める生徒像の文言を分かりやすく改めた。

(学校関係者の評価・提言)

- ・授業参観によって、学校が教育理念を掲げて教育を行っていることが理解できた。

2 教育活動

(現状の問題点)

- ・コース選択制を導入して 2 年。授業内容の点検と満足度を高める指導方法の工夫が必要である。
- ・25 年度卒昼間生の国家試験全員合格は達成できなかった。実技・学科とも個別指導の徹底が必要である。
- ・高等課程・専門課程の学生が混在している学級での分かりやすい授業の工夫がさらに必要である。

(改善のための方策)

- ・コース選択制の各コース内容を吟味し、各コースの充実度を高める方策を練る。

- ・シラバスを全教員が公表し、授業方法を改善して質の高い教育の展開を目指す。
- ・全教員が学生からの授業評価を受け、分かる授業を行うとともに、学校満足度調査を行う。
- ・国家試験対策の教員チームを作り指導法の差異を解消し、弱点補強のための反復練習の徹底や自己採点制度を導入する。
- ・欠課時数の多い学生への指導について教員間の共通認識を図るとともに、進級・卒業基準を学生・保護者にも周知する。

(結果検証)

- ・コース選択制の統合を図り、学生の満足度を高めることとし、新たに福祉美容の領域を取り入れることとした。
- ・清水マリナートにおいて「コース制発表会」を行い、保護者、中高生、美容業界の方々に学習成果を発表することができた。
- ・昼間生、通信制ともに国家試験全員合格は達成できなかったが、昼間生合格率は過去2年間上昇傾向にある。
- ・欠課時数の多い学生への保護者あて文書送付、保護者との面談実施や補講実施などで指導を徹底できた。

(学校関係者の評価・提言)

- ・卒業後の進路が明確な専門学校は目標をもって勉強していると感じられた。
- ・カリキュラムは定められた時間数があり大幅な変更はできないと思うが、学生に就職していくまでのビジョンを考えさせる必要がある。
- ・美容師としての方向性や目標を定めやすくするため、「経営者になる」「優れた技術者になる」などの知識を学ばせるとよい。
- ・単なる美容技術だけでなく福祉美容の知識や技能も学ばせるなど、美容師の資格を生かした新しい分野の学習は重要である。
- ・専門学校に進学する高校生に対して国家試験の取得の重要性を認識させるためにも国家試験合格率90%超の継続は必要である。
- ・国家試験は美容技術を見極めるための試験であり不合格にするための試験ではない。国家試験対策が十分な学生は合格できるので、技術が不足している学生には教員がチームで底上げしていくことが有効である。

3 学生受け入れ

(現状の問題点)

- ・昼間課程・通信課程ともに定員確保は困難であった。広報活動の工夫や定員見直しの検討も必要である。
- ・美容師になる夢が継続できず中途退学に至る学生がいる。ていねいな初期対応が必要である。

(改善のための方策)

- ・中学・高校だけではなく、美容室・地域への積極的な広報活動を展開する。
- ・個人面談・保護者面談を増やし、基本的な生活習慣の育成や心の相談に応じられる教

員を育成する。

- ・学校見学会、オープンキャンパス等で美容師養成の学校生活を十分理解させるなどで、不本意入学を減らす。
- ・美容業の周知と学生確保を目指して、合同進路ガイダンス、高校別進路説明会に積極的に参加する。

(結果検証)

- ・静岡まつりなど地域の様々なイベントに積極的に参加し、学校の教育活動をPRすることができた。
- ・学生確保を目的に、合同進路ガイダンス、高校別進路説明会に年間 57 回参加することができた。
- ・オープンキャンパス、学校見学会に延べ 408 人の高校生等を招き、美容業務を広報することができた。
- ・保護者を交えた面談できめ細かな指導を行っているが、退学を許可せざるを得ない場合もあった。

(学校関係者の評価・提言)

- ・高校生は地元志向が強くなっている状況があるので、職業高校や総合学科高校に力を入れて広報活動を行うことが有効である。
- ・カリキュラムだけでなく就職率も高校生は注目しているので、高い就職率の維持は重要である。
- ・美容専門学校は髪の毛をカットするばかりと思われがちなので、ネイルなどのトータルビューティーやヘアショーを外部に向けてアピールすることも大事なことである。
- ・高校生に学校説明をするときに、美容師の良いところだけでなく厳しい面も説明することが専門学校を選択するときの「ミスマッチ」を防ぐために有効である。
- ・国家試験合格率が常に 90%を超えていれば、高校側が自信を持って生徒に対して進学を紹介できる基準となりうるので頑張ってもらいたい。
- ・コンクールに入賞することにより入学者を増加させている学校もある。
- ・入学者を増やすためには、「美容師の養成校」として国家試験の合格率が 100%に近い「魅力ある学校」と、コンクールで入賞している姿を見て「自分もあんな風になりたい」という学校の二極化を認識する必要がある。
- ・オープンキャンパスや学校見学などで、入学希望者の保護者の方も出席してもらうように案内をすることにより、志願者数が伸びていくと思う。
- ・教員は在校生の保護者との関係作りを密接にすることが必要である。特に中途退学者を抑止するためにも重要である。

4 教職員組織

(現状の問題点)

- ・教職員のチーム力は強いが、業務内容の担当が不明確なものがあった。
- ・一部の教員に業務が偏ることがあった。業務内容の評価を定期的に行う必要がある。

(改善のための方策)

- ・各種資格を取得できるよう、教員を積極的に研修会に参加させ、担当可能な課目数を拡大させる。
- ・担当時間数・業務内容を平均化し、教職員の資質の向上の時間を確保する。
- ・文書処理を改善し、職員間で業務内容の共通理解と情報の共有化を目指す。

(結果検証)

- ・一部の教員に業務が偏ることをなくし、全員が関わりチームで対応することができるようになった。
- ・研修の機会がある度に積極的に受講させ、担当課目の幅を拡大することができるようになった。
- ・学生技術大会や各種大会に向けての外部講師招聘が教職員の技能向上につながった。
- ・起案、供覧等、文書処理の様式等を定めた。

(学校関係者の評価・提言)

- ・教員がサラリーマン化することなく、「生徒を伸ばす」という信念と「コンクールに入賞させる」、「国家試験に100%合格させる」という強い思いを持つチームづくりが必要である。
- ・美容室と美容専門学校が連携して勉強会を開くことができれば、コンクール対策として有効になると思う。

5 施設・設備等

(現状の問題点)

- ・無線LANが整備されているが、教育機器の活用が不十分である。
- ・未使用教室の活用を検討し、老朽化した備品等の精査が必要な段階にある。

(改善のための方策)

- ・無線LANの整備を踏まえ、iPadの活用を進める。

(結果検証)

- ・未使用教室を来客用の応接スペースとし、共有スペースのテーブル・椅子の更新を行った。
- ・ワゴン等老朽化した備品の精査を行い、入れ替えや購入を進めることができた。
- ・iPadの活用は一部の教育活動にとどまった。

(学校関係者の評価・提言)

- ・学校の原資も関係するので一概には言えないが、トイレの改装やエステ設備の充実をしている学校もある。
- ・iPadの利用は「見せる授業」を行うことで活用できる。技術の専門学校であるので教員の技術を繰り返し学べる環境作りを進めるとiPadが有効に活用できる。クラウドサービスを活用することにより、予習や復習などの自宅学習にも利用することができる。

6 学生生活支援

(現状の問題点)

- ・不登校や人間関係に悩む学生への対応が必要である。
- ・防災訓練は、形式に墮することなく実状に即した実践的な内容とする必要がある。
- ・進路ガイダンスに参加する美容室の精査等、求人開拓のさらなる工夫が必要である。

(改善のための方策)

- ・家庭との連携を密にして、教育相談的技法で問題の解決を図る。
- ・避難経路の確認、避難地・避難所の確認等、実状に即した訓練を行う。
- ・県内外美容室の勤務条件とその実態についての把握を行う。

(結果検証)

- ・最終的な避難所を周知させた上で、避難地までの集団歩行訓練、保育園との合同訓練など、より具体的な訓練ができた。
- ・キャリアガイダンスの一環として、礼法等進路指導講座の充実を図ることができた。
- ・年間5回、延べ100社の美容室を招き、学生向けに効果的な進路ガイダンスを実施することができた。

(学校関係者の評価・提言)

- ・美容室が実際に来校してアプローチをしなくても学校の情報がわかるようすると学校への理解も進むと思う。
- ・通信課程の学生にはカリキュラムが十分浸透していない部分があると思う。1年間のカリキュラムを通信課程学生に連絡をしてもらうことと学生に対して余裕をもって連絡することにより、学生自身が美容室へ休暇の連絡など行動しやすくなる。
- ・災害発生時の帰宅困難者については近距離からの通学者であっても保護者が自宅に帰宅できない状況も想定できるので学校に留め置くことも想定しなければならない。
- ・帰宅できるまでの期間を例えば1週間と想定した場合に、帰宅できる環境になるまで待機しているだけでなく、地域の自治会組織等において学生がどのような貢献ができるかということまで学校は考えておかななくてはならない。
- ・通常の防災訓練のほか、抜き打ち防災訓練も有効である。
- ・備蓄食料品については、3日間分の備蓄を進め、年度によって備蓄する食料の種類を変えると、飽きることのない防災食体験をすることができる。

7 管理運営

(現状の問題点)

- ・学則等の諸規程は、定期的に見直し、時宜にあったものに充実させる必要がある。
- ・学校安全点検は定期的、整備は迅速に対応する必要がある。
- ・財務状況等の情報公開の体制を整える必要がある。

(改善のための方策)

- ・3学期制への変更等、学則の改正案を作成し、職員への周知・理解を図る。
- ・安全点検結果に基づき、緊急・中長期の計画を立てて整備を行う。
- ・全員が学校の管理・運営に関心を持つ。

- ・ 全員が知るべき情報は常に連絡し合い、相互理解を図る。

(結果検証)

- ・ 理事と教職員の相互理解に向けて、今後も連携を密にしていきたい。
- ・ 個人情報保護のため、入学時に保護者から「使用に関する同意書」を求めることを徹底した。
- ・ 学則等の諸規程の見直しを年度末に向けて進めている。
- ・ 職員間の連携と相互協力が着実に進み、風通しのよい職場環境が実現しつつある。

(学校関係者の評価・提言)

- ・ 特になし

平成26年度 静岡県美容専門学校 学校評価報告書

27.2.10

1. 教育理念・教育目標

評価基準: A 適切である B ほぼ適切である C やや不十分な点がある D 不十分な点がある

評価項目	自己評価
・教育方針、指導目標及び目指す生徒像が、明確に示されているか	A
・教育方針、指導目標及び目指す生徒像は、卒業時の到達が読みとれるものになっているか	B
・教育方針、指導目標及び目指す生徒像は、定期的に見直されているか	A
・教育方針、指導目標及び目指す生徒像は、学生に浸透しているか	C

[現状の問題点]

- ・教育方針等は、始業式、終業式などで意識を持たせているが、全生徒に十分理解されているとはいえない。
- ・教育方針の文言が説明しにくい表現となっている。

[改善のための方策]

- ・教育方針、目標等は、平易なことばで分かりやすく示す。
- ・入学式、始業式、終業式等に、保護者や生徒に理由等の説明を加えながらさらに徹底する。
- ・日々の授業やホームルームなど全教育活動を通して美容師としての在り方を指導する。

[結果検証]

- ・27年度に向け、4つの教育方針、求める生徒像の文言を分かりやすく改めた。

2. 教育活動

評価項目	自己評価
・カリキュラムは教育目標が反映されているか	A
・定期的なカリキュラムの見直しが行われているか	A
・テキストや教材は適切なものを選定しているか	A
・シラバスが作成され学生に配布されているか	B
・授業の点検・評価が適切に実施されているか	B
・国家試験や各種検定の合格率は目標を超えているか	C
・成績や出席が目標に到達しない学生に適切なフォローが行われているか	B
・進級、卒業の判定審査は適切に実施されているか	A

[現状の問題点]

- ・コース選択制を導入して2年。授業内容の点検と満足度を高める指導方法の工夫が必要である。
- ・25年度卒屋間生の国家試験全員合格は達成できなかった。実技・学科とも個別指導の徹底が必要である。
- ・高等課程・専門課程の学生が混在している学級での分かりやすい授業の工夫がさらに必要である。

[改善のための方策]

- ・コース選択制の各コース内容を吟味し、各コースの充実度を高める方策を練る。
- ・シラバスを全教員が公表し、授業方法を改善して質の高い教育の展開を目指す。
- ・全教員が学生からの授業評価を受け、分かる授業を行うとともに、学校満足度調査を行う。
- ・国家試験対策の教員チームを作り指導法の差異を解消し、弱点補強のための反復練習の徹底や自己採点制度を導入する。
- ・欠課時数の多い学生への指導について教員間の共通認識を図るとともに、進級・卒業基準を学生・保護者にも周知する。

[結果検証]

- ・コース選択制の統合を図り、学生の満足度を高めることとし、新たに福祉美容の領域を取り入れることとした。
- ・清水マリナートにおいて「コース制発表会」を行い、保護者、中高生、美容業界の方々に学習成果を発表することができた。
- ・昼間生、通信生とも国家試験全員合格は達成できなかったが、昼間生合格率は過去2年間で上昇傾向にある。
- ・欠課時数の多い学生への保護者あて文書送付、保護者との面談実施や補講実施などで指導を徹底できた。

3. 学生受入れ

評価項目	自己評価
・学生募集のための広報資料の表現・内容、広報活動の方法・時期は適切か	B
・入学案内、HPには志願者が必要とする情報が掲載されているか	A
・募集要項の内容は適切か	A
・学校見学会、オープンキャンパスの時期、内容は適切か	A
・入学者選抜の時期、方針、方法は適切か	A
・志願者状況、定員充足率はどうか	C
・中途退学の原因・実状を適切に把握しているか	B

〔現状の問題点〕

- ・昼間課程・通信課程ともに定員確保は困難であった。広報活動の工夫や定員見直しの検討も必要である。
- ・美容師になる夢が継続できず中途退学に至る学生がいる。ていねいな初期対応が必要である。

〔改善のための方策〕

- ・中学・高校だけではなく、美容室・地域への積極的な広報活動を展開する。
- ・個人面談・保護者面談を増やし、基本的な生活習慣の育成や心の相談に応じられる教員を育成する。
- ・学校見学会、オープンキャンパス等で美容師養成の学校生活を十分理解させるなどで、不本意入学を減らす。
- ・美容業の周知と学生確保を目指して、合同進路ガイダンス、高校別進路説明会に積極的に参加する。

〔結果検証〕

- ・静岡まつりなど地域の様々なイベントに積極的に参加し、学校の教育活動をPRすることができた。
- ・学生確保を目的に、合同進路ガイダンス、高校別進路説明会に年間57回参加することができた。
- ・オープンキャンパス、学校見学会に延べ408人の高校生等を招き、美容業務を広報することができた。
- ・保護者を交えた面談できめ細かな指導を行っているが、退学を許可せざるを得ない場合もあった。

4. 教職員組織

評価項目	自己評価
・専任教員は設置基準を満たしているか	A
・専任教員1人あたりの担当科目時間数は適切か	B
・教職員の業務内容は明確になっているか	B
・教職員の能力、業務内容の評価を定期的実施しているか	B
・教職員の資質向上のためのシステムは適切に構築されているか	B
・職員は業務が滞りなく遂行できる人数を雇用しているか	B

〔現状の問題点〕

- ・教職員のチーム力は強いが、業務内容の担当が不明確なものがあつた。
- ・一部の教員に業務が偏ることがあつた。業務内容の評価を定期的に行う必要がある。

〔改善のための方策〕

- ・各種資格を取得できるよう、教員を積極的に研修会に参加させ、担当可能な課目数を拡大させる。
- ・担当時間数・業務内容を平均化し、教職員の資質の向上の時間を確保する。
- ・文書処理を改善し、職員間で業務内容の共通理解と情報の共有化を目指す。

〔結果検証〕

- ・一部の教員に業務が偏ることをなくし、全員が関わりチームで対応することができるようになった。
- ・研修の機会がある度に積極的に受講させ、担当課目の幅を拡大することができるようになった。
- ・学生技術大会や各種大会に向けての外部講師招聘が教職員の技能向上につながつた。
- ・起案、供覧等、文書処理の様式等を定めた。

5. 施設・設備等

評価項目	自己評価
・講義室は学習を行うのに十分な面積を有しているか	A
・実習室は実習を行うのに十分な面積を有しているか	A
・実習設備は整備されているか	A
・講義室・実習室の管理は適切に行われているか	B
・学生が自学自習できる教室を有しているか	A
・図書室は適切に整備されているか	B
・保健室は適切に整備されているか	B
・教育用機器備品は整備され活用されているか	B
・職員室の管理は適切に行われているか	A
・事務室の管理は適切に行われているか	B

[現状の問題点]

- ・無線LANが整備されているが、教育機器の活用が不十分である。
- ・未使用教室の活用を検討し、老朽化した備品等の精査が必要な段階にある。

[改善のための方策]

- ・無線LANの整備を踏まえ、iPadの活用を進める。

[結果検証]

- ・未使用教室を来客用の応接スペースとし、共有スペースのテーブル・椅子の更新を行った。
- ・ワゴン等老朽化した備品の精査を行い、入れ替えや購入を進めることができた。
- ・iPadの活用は一部の教育活動にとどまった。

6. 学生生活支援

評価項目	自己評価
・奨学金等、経済的支援は整備されているか	A
・学生相談、カウンセリングに関する体制が整備・機能しているか	B
・各学校行事について、適切な事後反省を行っているか	B
・防犯・防災訓練の実施等、不法侵入・災害に対する整備は万全か	A
・進路活動に関する支援が整備され、機能しているか	B
・新たな就職先の求人開拓をしているか	C

[現状の問題点]

- ・不登校や人間関係に悩む学生への対応が必要である。
- ・防災訓練は、形式に陥ることなく実状に即した実践的な内容とする必要がある。
- ・進路ガイダンスに参加する美容室の精査等、求人開拓のさらなる工夫が必要である。

[改善のための方策]

- ・家庭との連携を密にして、教育相談的技法で問題の解決を図る。
- ・避難経路の確認、避難地・避難所の確認等、実状に即した訓練を行う。
- ・県内外美容室の勤務条件とその実態についての把握を行う。

[結果検証]

- ・最終的な避難所を周知させた上で、避難地までの集団歩行訓練、保育園との合同訓練など、より具体的な訓練ができた。
- ・キャリアガイダンスの一環として、礼法等進路指導講座の充実を図ることができた。
- ・年間5回、延べ100社の美容室を招き、学生向けに効果的な進路ガイダンスを実施することができた。

7. 管理・運営

評価項目	自己評価
・理事会・評議員会は適時適切に開催され、機能しているか	A
・理事会、評議員会の議事録は適切に作成、管理されているか	A
・就業規則などの諸規程は適切に整備されているか	A
・就業規則などの諸規程・学則等が定期的に見直されているか	B
・組織間の連携は適切に図られているか	B
・消防計画、学校安全計画等は適切に整備されているか	A
・個人情報保護法を遵守しているか	A
・学校の財務情報を公開する体制が整備されているか	B

〔現状の問題点〕

- ・学則等の諸規程は、定期的に見直し、時宜にあったものに充実させる必要がある。
- ・学校安全点検は定期的、整備は迅速に対応する必要がある。
- ・財務状況等の情報公開の体制を整える必要がある。

〔改善のための方策〕

- ・3学期制への変更等、学則の改正案を作成し、職員への周知・理解を図る。
- ・安全点検結果に基づき、緊急・中長期の計画を立てて整備を行う。
- ・全員が学校の管理・運営に関心を持つ。
- ・全員が知るべき情報は常に連絡し合い、相互理解を図る。

〔結果検証〕

- ・理事と教職員の相互理解に向けて、今後も連携を密にしていきたい。
- ・個人情報保護のため、入学時に保護者から「使用に関する同意書」を求めることを徹底した。
- ・学則等の諸規程の見直しを年度末に向けて進めている。
- ・職員間の連携と相互協力が着実に進み、風通しのよい職場環境が実現しつつある。